

建 造 経 歴 書 目 次

1. 艦種, 艦名, 建造番号, 公表要目	1
2. 防衛計画上本艦の占める地位	1
3. 建造予算成立の経緯	2
4. 基本設計確定までの経緯	2
5. 計画と実艦との主な相違	3
6. 建造契約までの経緯	3
7. 建 造 工 程	4
8. 本艦建造のため特に行なった研究, 試験, 実験, 試作	7
9. 実物大模型, 建造方式, 製造組立法, 特殊施設	8
10. 工事の重大な計画変更, 誤作, 事故	9
11. 建造中の検査の経過概要	9
12. 公試及び試験の実施概況.....	9
13. 就役条件審議の概要	13
14. 推進機関の主要経歴	13
15. 建造に関係した主要職員名	14
(付) 建造技術に関する本艦の特色	15

1. 艦種, 艦名, 建造番号, 公表要目

艦種	護衛艦		
艦名	きりしま		
建造番号	2314		
艦番号	174		
計画基準排水量	7,200トン		
長さ(全長)	161	m	
幅	21.0	m	
深さ	12.0	m	
喫水(計画喫水)	6.1	m	
船型	平甲板型		
主機	ガスタービン(COGAG)100,000 PS		
速度	30ノット		
乗員数	300名		
主要兵装			
・イージス武器システム	1式	・3連装短魚雷発射管	2基
・垂直発射装置	1式	・電波探知妨害装置	1式
・高性能20mm機関砲	2基	・対潜情報処理装置	1式
・54口径127mm速射砲	1基		
・SSM装置	1式		

2. 防衛計画上本艦の占める地位 ※

本艦は、平成2年度計画の護衛艦で中期防衛力整備計画(昭和61年～平成2年)における「こんごう」型護衛艦の2番艦である。

3. 建造予算成立の経緯 ※

本艦の建造費は平成2年度において5年間の継続費として予算の成立をみた。
内訳は次のとおりである。

総 額	129,212,919 千円
平成2年度	3,403,861 千円
平成3年度	21,101,827 千円
平成4年度	25,337,932 千円
平成5年度	63,521,492 千円
平成6年度	15,847,807 千円

4. 基本設計確定までの経緯 ※

- (1) 要求性能決定 平成2年6月8日 (防防防第2978号)
- (2) 基本設計協議 平成2年8月7日 (技本開船第24号)
- (3) 基本設計回答 平成2年10月16日 (海幕艦第5105号)
- (4) 基本設計申請 平成2年10月17日 (技本開船第35号)
- (5) 基本設計承認 平成2年11月19日 (装艦第5976号)

5. 計画と実艦との主な相違 ※

計画と実艦との相違は特にない。

6. 建造契約までの経緯 ※

- | | |
|------------|-------------------------|
| (1) 長官指示 | 平成2年6月26日 (防装艦第 3338号) |
| (2) 調達準備要求 | 平成2年8月23日 (海調本艦2第 14号) |
| (3) 仕様説明会 | 平成2年10月2日 |
| (4) 実施計画承認 | 平成2年10月30日 |
| (5) 調達要求 | 平成2年11月28日 (海調本艦1第 24号) |
| (6) 契約 | 平成3年3月18日 (認証番号第30335号) |

7. 建 造 工 程

本艦は、下記のとおり建造され諸試験終了後引渡された。

平成3年 3月18日	三菱重工業株式会社と契約 防衛庁 護衛艦(2314) 三菱重工業(株)長崎造船所建造番号第2101番船 として工事着手
平成4年 4月 7日	三菱重工業(株)長崎造船所長浜船台において起工式 参列者 調達実施本部長崎支部 鎌田支部長 " 重松副支部長
平成4年 9月 7日	長浜船台上にブロック搭載開始。
平成5年 4月 5日	1, 2号減速装置搭載
平成5年 4月 6日	1~4号ガスタービン主機搭載
平成5年 8月19日	9時02分 進水 参列者 海上幕僚監部 林崎海上幕僚長 調達実施本部 諸富本部長 " 長崎支部 鳥越支部長 佐世保地方総監部 内田 総 監
平成5年 8月19日 ~9月17日	長崎造船所第2ドックに入渠 (滑走台取外し, フォアラ・フィン・ソナードム取付)
平成6年 2月16日 ~2月24日	長崎造船所第2ドックに入渠 (CPP翼角調整)

HP『海軍砲術学校』公開資料

平成6年	3月 4日～	主機起動開始
平成6年	5月 9日	長崎造船所第2ドックに入渠
	～ 5月21日	(船底塗装, プロペラ磨き)
平成6年	5月28日	長崎港内ブイ係留状態にて重心査定試験
平成6年	5月31日	出動運転(第1回～第20回)
	～ 9月 8日	
平成6年	9月12日	機関開放検査
	～10月 7日	
平成6年	10月13日	出動運転(第21回～第28回)
	～12月20日	
平成7年	1月 6日	長崎造船所第2ドックに入渠
	～ 1月20日	(船底見通し, 船底塗装仕上げ, プロペラ磨き)
平成7年	1月26日	出動運転(第29回～第33回)
	～ 2月22日	
平成7年	3月16日	長崎造船所向島岸壁において引渡式

参列者

海上幕僚監部	福地海上幕僚長
調達実施本部	諸 富 本 部 長
” 長崎支部	鳥 越 支 部 長
佐世保地方総監部	夏 川 総 監

なお、主要建造工程を次頁に示す。

8. 本艦建造のため特に行なった研究, 試験, 実験, 試作

8-1 海幕において案画したもの ※

特になし。

8-2 技本において案画したもの ※

特になし。

8-3 建造所において行なったもの（建造所の自発によるもの）

・国産の、ヘリデータリンクシステムとイージスシステムが、本艦で初めて接続したが、事前に機能を確認するデータセットが存在しないため、官の協力をえて本艦とSH-60Jヘリコプタ実機を使用した事前確認を2度にわたり実施した。

9. 実物大模型, 建造方式, 製造組立法, 特殊施設

9-1 実物大模型

なし

9-2 建造方式, 製造組立法

(1) 船殻工事

船殻構造は、ブロック建造方式を全面的に採用した。

(2) ぎ装工事

建造合理化のため船, 機, 電, 武の先行ぎ装（船殻ブロック組立完成まで）及び区画別ぎ装（船殻ブロック大組完成後）を実施した。

なお、建造中のぎ装品の品質確保のため防汚, 防水, 防塵, 防錆等, クリーンシップ対策を実施した。

実施要領は、区画を環境保全該当区画, 隣接区画, 準該当区画等に区分し現場工程, 機器搭載日程, 機器保全等を関連区画単位別に管理する方式を採用した。

9-3 特殊施設

なし

1 0. 工事の重大な計画変更, 誤作, 事故

なし

1 1. 建造中の検査の経過概要

検査は、おおむね順調に行われ、成績は良好であった。

1 2. 公試及び試験の実施概況

公試及び試験は、順調に進捗し好成績裡に終了した。

なお、出動運転実施日、主要試験項目を次頁に示す。

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

出 動 運 転 内 容 (1/3)

回 次	実施日	出 動 海 面	試 験 項 目
1	6- 5-31	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・船体振動試験 ・投揚錨試験 ・操縦装置作動確認試験／すり合わせ運転〔減機〕 ・揚錨機用電動機性能試験 ・測程儀艦底管昇降試験
2	6- 6- 2	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・操縦装置作動確認／撓合機運転〔全機〕 ・最高回転数確認（前進側） ・最大出力設定確認〔全機〕 ・発電機性能確認試験 ・減軸全力（誘転）
3	6- 6- 7	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・MCS調整 ・翼角固定装置性能確認試験
4	6- 6- 9	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・急速発進・停止試験 ・艦橋操縦試験 ・操縦位置切替試験 ・軸ブレーキ作動確認 ・最低回転数維持機能試験 ・主機切替試験
5	6- 6-10	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・MCS増減速試験 ・後進力試験 ・操縦モード切替試験 ・耐振耐衝撃性作動試験（消磁・航海・電波・水測） ・操縦装置作動確認試験（遠隔手動／機側）
6	6- 6-14	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・船体運動状態表示装置試験 ・造水装置単独運転試験 ・外部電源防食装置試験 ・測程儀航行調整試験・操舵装置試験 ・操舵用電動機性能試験 ・電気式舵制御装置性能試験 ・耐振耐衝撃性作動試験（消磁・航海・電波・水測） ・主機／主減速装置振動計測（減機1・3）
7	6- 6-16	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・続航試験 ・騒音試験 ・計測装置試験 ・対勢作図装置航程試験 ・測程儀ダミー発進器誤差試験 ・測程儀直進誤差試験 ・速力運転性能試験 ・主機関一般性能試験 ・惰力性能試験 ・急速前後進試験・回転数制御試験・操縦性能試験（旋回試験） ・音響測深儀相互干渉試験 ・音響測深儀測深試験
8	6- 6-17		<ul style="list-style-type: none"> ・プロペラ雑音測定
9	6- 6-21	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・CPP変節操作試験 ・主機抽気性能試験・マスカブリー装置試験 ・クアブレードによる主機／主発起動試験 ・MCS調整（減軸運転）
10	6- 6-23	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・船体振動計測試験 ・耐振試験（電気、鉄砲・水雷・誘導） ・旋回試験（消磁） ・傾斜旋回試験（鉄砲・誘導武器） ・停止発射試験（水上発射管）
11	6- 6-28	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・射撃指揮装置距離校正試験 ・射撃指揮装置水平精度試験 ・フィンクワイパー試験 ・主機／主減速装置振動計測（減機2・4） ・消火装置性能試験 ・特殊標識灯装置試験
12	6- 8- 2	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・水上レーダ偽像及び遮影試験 ・対水上レーダ探知試験 ・YSC-11C 秘話装置通話試験 ・超短波極超短波送信機通信試験 ・超短波極超短波受信機受信試験 ・印刷電信機通信試験 ・水中通話機通信通話試験 ・対水上レーダ方位整合試験 ・対水上レーダ測距整合試験 ・レーダ指示機方位整合試験 ・味方識別機識別試験 ・電波探知妨害装置探知妨害試験

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

出 動 運 転 内 容 (2/3)

回 次	実施日	出 動 海 面	主 要 試 験 項 目
13	6-8-4	五 島 灘	・ 赤外線対策装置試験 ・ 高圧空気圧縮機連続運転作動試験 ・ シイコンバ航走試験 ・ 吸気室機密試験 ・ 甲板散水試験 ・ 通信用空中線絶縁抵抗測定検査
14	6-8-4 ~5		・ 騒音試験 ・ 漏光試験 ・ 主機/主減速機水中音計測
15	6-8-9	五 島 灘	・ 水温記録器繰出巻揚試験 ・ 水温記録装置水温検知錘投入試験 ・ 水中通話機送受信試験 ・ 探信儀試験器送波レベル計測試験 ・ 探信儀送受信試験 (送波レベル・受信感度) ・ 探信儀指向性試験 (受信指向性)
16	6-8-9 ~10	五 島 灘	・ 電波相互干渉試験 ・ 探信儀騒音試験 (停泊時) ・ 探信儀艦内雑音試験
17	6-8-18	五 島 灘	・ 射撃指揮装置総合試験 (対空) ・ 総総合試験 ・ SH-LINK 空中線遮影試験
16 - 2	6-8-18 ~19	五 島 灘	・ 探信儀指向性試験 (送信指向性) ・ 探信儀航走雑音試験 ・ 探信儀送受信試験 (ふ角送信機能) ・ 探信儀騒音試験 (航走中) ・ 探信儀試験器振動雑音レベル計測試験
18	6-9-6	五 島 灘	・ 中短波送信機電界強度試験 ・ 艦位測定装置艦位測定試験 ・ 艦艇用衛星通信装置衛星追尾試験 ・ 射撃指揮装置総合試験 (対水上) ・ HF印刷電信機通信試験 ・ 中短波送信機通信試験 ・ 長中短波受信機受信試験
19	6-9-7	伊 王 島 沖	・ 電波探知妨害装置監視空中線遮影試験 ・ 電波探知妨害装置送信空中線遮影試験 ・ 電波探知妨害装置方位測定試験 ・ 超短波・極超短波送信機指向特性試験 ・ 中短波送信機指向特性試験
20	6-9-8~9	五 島 灘	・ 探信儀音場試験
21	6-10-13 ~14	五 島 灘	・ C&D AND SURFACE SEARCH RADAR FUNCTIONAL TEST ・ C&D AND MULTI-FUNCTION RADAR FUNCTIONAL TEST ・ C&D/IFF FUNCTIONAL TEST ・ MFR FUNCTIONAL TEST
22	6-10-25	F 海 面	・ 耐振・耐衝撃性作動試験 (消磁・航海光学・電波・水測) ・ 127mm 砲装備発射試験 ・ 艦対艦ミサイル発射試験 ・ EMI AT SEA TEST ・ 相互干渉試験 (電波・銃砲・消磁・誘導武器)
23	6-10-26	F 海 面	・ 耐振・耐衝撃性作動試験 (消磁・航海光学・電波・水測) ・ 127mm 砲方位盤発射試験 ・ 高性能20mm機関砲装備発射試験 ・ チャフ装備発射試験
24	6-11-1	五 島 灘	・ 探信儀測距測向試験 ・ 対潜情報処理装置指揮制御総合試験 ・ えい航具投入試験 ・ えい航具えい航試験 ・ えい航具揚収試験

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

出 動 運 転 内 容 (3/3)

回 次	実施日	出 動 海 面	主 要 試 験 項 目
25	6-11-2 ~ 3	九 州 東 方	<ul style="list-style-type: none"> ・ えい航式パッシブソーナー投入揚収試験 ・ えい航式パッシブソーナー投入揚収試験 (非常用電動機) ・ えい航式パッシブソーナーえい航状態試験 ・ えい航式パッシブソーナー最大えい航速度試験 ・ えい航式パッシブソーナーえい航雑音試験
26	6-11-25 ~26	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ MFR UPLINK DOWNLINK TEST ・ NAVGATION SYSTEM CERTIFICATION TEST
27	6-12-12 ~13	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ C&D AND LINKS INTERFACE TEST ・ C&D FUNCTIONAL TEST ・ PHALANX TRACKING TEST
28	6-12-20	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通達距離試験 ・ 方位測定試験 ・ 音声交話試験 ・ COMBAT SYSTEM AND SH-60J FUNCTIONAL TEST ・ リンク確立試験 ・ ビデオ確認試験 ・ 干渉試験 (GPS) ・ 耐振耐衝撃性作動試験 (GPS)
29	7- 1-26	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吸気加熱装置試験
30	7- 2- 2	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ SURFACE WARFARE FUNCTIONAL TEST ・ 射撃指揮装置総合試験 ・ レーダ軸平行検査 ・ ACTS ANTI-AIR WARFARE FUNCTIONAL TEST
31	7- 2-16	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ COMBAT SYSTEM FUNCTIONAL TEST
32	7- 2-21	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 磁気コンパス残存自差測定 ・ 磁気コンパス自差修正 ・ 磁気コンパス補償コイル修正 ・ 磁気コンパス自差測定 ・ 磁気コンパスに他機器の及ぼす影響
33	7- 2-22	五 島 灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認運転試験

1 3. 就役条件審議の概要 ※

(1) 審議等の経過

期 日	実 施 事 項	場 所	記 事
6. 4. 12	就役条件審議委員会設置	海上幕僚監部	海上公試回数 3 3 回
6. 5. 13 \	海上公試立会い	五島灘・九州南方海域	
7. 2. 22			
6. 9. 29	中間審議	海上幕僚監部	
7. 2. 23 7. 2. 24	現地審議	建造所 三菱重工業(株) 長崎造船所	
7. 3. 6			

(2) 審 議 結 果

就役に差し支えないものと認める。

(3) 報告書所見要約(7. 3. 13 海幕長報告)

本艦は、「こんごう」型護衛艦の2番艦として建造され、公試成績及びぎ装の状況から、イージス護衛艦として運用上必要な機能及び性能を備えているものと認める。

1 4. 推進機関の主要経歴 ※

- | | | |
|---------------|-----|-----------|
| (1) 主 機 械 | 契 約 | 平成3年3月20日 |
| | 納 期 | 平成5年4月30日 |
| (2) 軸芯見通し | | 平成5年3月19日 |
| (3) 主機搭載 | | 平成5年4月6日 |
| (4) 主機関一般性能試験 | | 平成6年6月16日 |

15. 建造に関係した主要職員名

防衛庁 ※

長官		玉澤 徳一郎
装備局長		荒井 寿光
海上幕僚長	海将	福地 建夫
装備部長	海将補	山崎 眞
技術部長	海将補	千本木 茂夫
就役条件審議委員長	1等海佐	坂上 芳洋
ぎ装員長	1等海佐	濱田 良昭
技術研究本部長		太田 眞弘
技術開発官	海将	道面 敏彦
調達実施本部長		諸富 増夫
調本長崎支部長		鳥越 衛二
主任完成検査官	2等海佐	長殿 久丸

(注) 完工時の関係職員のみ記した。

造船所

三菱重工業株式会社	取締役社長	相川賢太郎
〃	長崎造船所 取締役所長	福田征孜
〃	〃 副所長	福島昭二
〃	〃 艦艇部長	川野裕基
〃	〃 造船工作部長	水野昌次
〃	〃 船舶営業部長	稲葉喜三郎

(付) 建造技術に関する本艦の特色

1. 概 要

本艦は、“こんごう”型 DDGシリーズの2番艦である。

主要目は基本的には1番艦と同一であるが、装置及び武器システムの進歩による変更を織込み性能向上を図った。

また、建造実績、就役実績等のフィードバック項目の織込みによる改善も図った。

1. 船 体 部

1. レーダ反射断面積低減のための傾斜船殻構造の採用
2. 弾片防御鋼及び二重構造化の採用による戦闘区画の弾片防御対策
3. き装システムの遠隔制御化や各種センサーによる監視の統合化等のダメージコントロールシステムの採用
4. 艦内与圧システム（開放循環与圧式）によるCBR 対策
5. 戦闘区画冷房方式やファンコイルユニットによる新冷暖房システム採用
6. 赤外線遮蔽構造物採用による赤外線低減対策強化
7. 消火・冷房用冷水管の段違いリングメイン化による抗堪性向上
8. 新洋上補給装置（昇降式スライディングパッドアイ）の採用
9. スプリンクラ装置の採用や化学消火装置拡充による消火・防火システムの拡充強化
10. 重心点支持及び静粛化機器採用や、マスキングエミッタの条数増による水中放射雑音低減対策強化

2. 機 関 部

1. 新型ガスタービン推進プラントの装備
2. デジタル制御方式や、艦橋操縦盤・機側操縦盤等の新操縦システム採用
3. 多段円筒方式・エダクタ方式の併用による赤外線反射低減対策の強化
4. 水中放射雑音低減対策の強化

3. 電 気 部

1. 大容量発電機の採用による電源システムの大容量化
2. 監視、制御機能の統合化・自動化及び機側制御盤の装備による電源監視制御システムの統合化
3. 伝送速度の高速化及び伝送信号の適用拡大による艦内情報処理システムの性能向上
4. 艦内通信装置の統合一元化による、統合音声通信システムの装備
5. 軽量ノンハロゲン難燃電線の採用

4. 武 器 部

1. 対空武器システムの飛躍的性能向上
 - ・ イージス武器システムの装備
 - ・ イージス武器システムと国産武器システムとの接続
2. 対潜武器システムの性能向上
 - ・ 大型ソーナー（ラバーウィンドゥ採用）の装備
 - ・ えい航式パッシブソーナー、ソノブイ信号処理装置の装備
 - ・ イージス武器システムとの接続
3. 電子戦システム、通信システムの性能向上
 - ・ 新型電波探知妨害装置の装備
 - ・ データ通信の拡大（SF端末装置）
 - ・ 衛星通信装置の装備
 - ・ SH-リンク装置の装備
4. 電磁パルス、電磁干渉防止対策の実施

5. 静粛性向上

消火海水ポンプ， 般用海水ポンプ等に重心点支持方式を採用した。

6. 主要武器装置等

主要武器装置

54口径127mm速射砲	1基
射撃指揮装置2型-21G (FCS-2-21G)	1基
高性能20mm機関砲 (CIWS MK15 MOD12)	2基
チャフシステム (SRBOC MK36 MOD6)	1式
水上発射管 (HOS-302)	2基
えい航具4形B	1式
艦艇用衛星通信装置	1式
探信儀 OQS-102	1式
えい航式パッシブソーナーOQR-2	1式
データリンク装置 (LINK-11)	1式
味方識別装置 (AN/UPX-29 (V))	1式
対水上レーダ (OPS-28D, OPS-20)	1式
電波探知妨害装置 NOLQ-2	1式
垂直発射装置 (VLS MK41 MOD2)	1式
SSM装置 (AN/SWG-1A (V) 21)	1式
イージス武器システム (MK7 MOD10)	1式
対潜情報処理装置 (OYQ-102B)	1式
艦船用ソノブイ信号処理装置 (OQA-202B)	1式